



好天に恵まれた11月9日(土)九州北部豪雨被災後2年が過ぎた被災地、朝倉市杷木志波で防災士2名が参加し志波柿収穫支援ボランティアが行われた。

柿農家支援プロジェクト始まる

被災直後、当センターでは「柿農家再生プロジェクト」として農園内や周辺の瓦礫撤去、整地等支援を行ってきたが、災害の混乱期から次のフェーズに移行してきていると判断し、柿収穫作業を中心とした支援活動を継続していくこととした。よって「柿農家支援プロジェクト」としてスタートした。

九州北部豪雨で亡くなられた方へ謹んでご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに早期の復旧・復興を祈念します。



この日行った収穫作業は被災直後、今後の収穫はできないかもしれないと危惧されていた柿農園で行われた。それは柿の木が土砂で数10センチ埋まっていたからであるが、一昨年、昨年と実を結び、今年はたわわに実が生り、被災後初の嬉しい豊作となった。早生松本という品種で10月下旬から11月上旬にかけて収穫され、現在柿の直売所等で販売されているものである。

朝倉志波柿の灯を消さないために



午前9時過ぎから収穫作業を開始し、赤く色づいた柿を選びながら昼までに10ケースを収穫した。昼食後、今日中には終わらないだろうと思っていた作業が捗り、最終的には18ケース収穫することができた。



午後3時前に作業を終える頃、柿農家ファミリー5人も集まり、和やかなひと時を過ごした。近年、後継者不足で柿農家を廃業する話をよく聞く。この家族のみならず、朝倉の柿農家を守るため、支援を行っていききたいと強く感じた。